

## 主体的に読みを深める工夫

端崎 圭一

英語科 山岸 律子

斉藤亜希子

### 1. テーマ設定の理由

今年度の英語科の研究テーマは「主体的に読みを深める工夫」とした。この「主体的に」と「読み」をテーマに入れた理由を中心にテーマ設定の理由を述べたい。

本校では昨年度「思考力を育む指導と評価」をテーマに学校全体で研究に取り組んだ。英語科としては表現活動の際に「思考」が働くと考え、それまで習得したことを活用する表現活動の研究を中心に「活用型学習活動の工夫」を教科の研究テーマとして研究を進めることとした。その結果、昨年度は表現する際の「話す」「書く」技能が研究の軸となった。

一方、中学校学校指導要領の外国語科改訂の趣旨の4つの基本方針の1つに、「自らの考えなどを相手に伝えるための『発信力』やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの育成を重視する観点から、『聞くこと』や『読むこと』を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、『話すこと』や『書くこと』を通じて発信することが可能となるよう、4技能を統合的に育成する指導を充実する。」とある。このことから「話すこと」や「書くこと」はそれだけで指導するというよりも、「聞くこと」や「読むこと」と結び付けながら指導することが期待されていることがわかる。

このように、本校で昨年度研究の軸となった「話すこと」や「書くこと」は独立した指導だけでなく、今後は「聞くこと」や「読むこと」と結び付けた指導の充実を図りたいところである。とりわけ、「読むこと」に関しては今まで焦点をあてて研究されることの少なかった技能である。また、これまで「読むこと」の指導と言っても、概要をつかませたりテキストの表面に現れている事実を確認する質問に答えさせたり、感想を書かせたりする指導が中心で、教師主導型の活動に終わっていた。教科書本文の指導においても、文法などの言語材料をあつかうことが中心で、内容そのものに踏み込んだ指導になっていないことが多かった。そこで、今年度は、「読み」に焦点をあてることとした。

ここで「読み」に焦点をあてるに際し、「読むこと」の指導を今までのように概要を読み取ったり表面上の事実を確認したりするだけでなく、「読み」を「深める」指導をしたいと考えた。そこで、上記の中学校学校指導要領の外国語科改訂の趣旨の基本方針の1つにもあるように、「読むこと」を通じて得た知識を自らの体験や考えなどと結び付けて「話すこと」や「書くこと」などの表現活動をすることとした。それは自分の体験や考えなどと結びついた表現活動をすることで、その表現活動をするために何度も読もうとしたり、自分の考えを表現するために自分なりに判断したりして「主体的」な「読み」になり、「読み」が「深まる」のではないかと考えたからである。

以上のように、昨年度までの習得したことを活用する表現活動の研究を生かし、今までに焦点のあてられることが少なかった「読むことに」焦点をあて、表現活動をその「読むこと」に関連させることで読みを深められるように、「主体的に読みを深める工夫」を教科の研究テーマとした。

## 2. 課題を解決するための思考のあり方について

### (1) 課題設定について

外国語科の教科の目標は「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」となっている。それに伴って英語科では4つの具体的な目標が設定されている。

- ① 初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。
- ② 初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。
- ③ 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。
- ④ 英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができる。

今年度は上の3つのうちの③の「読むこと」における「理解」と②の「話すこと」と④の「書くこと」を結びつけ、表現活動を意図的に結びつけた課題を設定した。これはコミュニケーションとはそもそも双方向の活動であり、4技能のそれぞれを個別の活動よりもそれぞれを結びつけた活動の方が、生徒の感情や考えが入る主体的で意欲的な活動になり、活動自体が目標を達成するために効果的になるのではと考えたからだ。

### (2) 思考の型について

英語科として用いる思考の型として、自己表現をするときの準備として「分類する」「整理する」「選別する」「比較する」「関連づける」「(考えを) 広げる」「順序づける」が考えられる。また、自分の意見を論理的に表現するときは、「比較する」「関連づける」「理由づける」「判断する」「順序づける」などが用いられると考えられる。これらは昨年度の研究から特に変わっていない。

今年度はこれらの思考の型を、「読む」活動と表現活動の両方で用いていきたい。松浦(2013)によれば、外国語科では新学習指導要領の学力三要素の一つとされる「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」は「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」で評価される部分に当たるとされている。今年度のテーマである「主体的に読みを深める工夫」は、この「理解」と「表現」を結びつけて指導を行うが、この「読む」活動で理解する際にこれらの思考の型を用いて、「書く」「話す」などの表現につなげていきたい。

### (3) よりよく思考するための手立てについて

昨年度も用いたイメージマップを今年度も思考する手立てとして用いていきたい。

「読む」活動では、内容をイメージマップに書き視覚化することでより詳しく理解をする手立てとなる。また、描いたイメージマップを友人やクラスと共有することでその理解が正しいかどうかを確認したり、自分とは違う視点に気づいたりすることができる。

読んだ後にその内容について表現する活動では、表現する前の準備として、それまでに読んだ内容をイメージマップにして、それに自分の考えを「広げ」書き加えることができる。これは読んだ内容と自分の考えや経験を「比較」したり「関連」づけたりする手立てとなる。それは、読んだ内容をもとに自分の考えや感想を表現するために思考するときに、「分類する」「整理する」「選別する」「順序づける」「整理する」などの手立てともなる。

また、読んだ内容を参考に表現活動をする時には、読んだ内容をイメージマップにすることで、文の構成を理解しやすくすることができる。これは、文章を書く際にイメージマップを参考に自分の考えと「比較する」

「関連づける」「理由づける」「判断する」「順序づける」などをし、表現する準備をすることができる。

このように、「読む」とき、「書く」「話す」表現するとき、それらを結ぶときにこのイメージマップを思考の手立てとして用いてきたい。

### 3. 各学年の実践

#### (1) 1年生の実践

##### ①従来の「読むこと」の指導への反省

今までの「読むこと」の指導、とりわけ内容理解の指導を振り返ると、英文から5W1Hに関する情報を読み取らせたり、概要をつかませたり、または、感想を述べさせたりする指導が主であった。こうした指導を否定するものではないが、生徒の立場で言うと、知識を得るために読むとか楽しみのために読むとかなどの目的があつて読んでいるのではなく、読まされているという感じが拭えない活動であつたように思われる。また、別の視点で言うと、今までの「読むこと」の活動はそれ自体で完結しており、「話すこと」「聞くこと」「書くこと（≒発信）」の3技能を伴う活動とは切り離された独立した活動であつたと言っても過言ではない。

ところで、改訂された学習指導要領によれば、「4技能を※統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成する（解説外国語編）」ことが指導する際に求められている。これを上記の反省に絡めるならば、指導者は、今までの「読むこと」の指導方法を、他の技能と関連づける指導方法に改善していかなければならないということになる。

そこで1年生の実践では、「読むこと」と「書くこと」を関連づける指導を通して、生徒が目的意識を持つて主体的に読みを深める基礎となる授業を考えて実践してみた。 ※「統合的に」とは「有機的に相互に関連づける」ということ。

##### ②実践のコンセプト

1年生の実践では、一言で言うと「書くために読む」というコンセプトを元に指導をした。扱った単元は、Program7 “Dilo in Lighthouse Bay”である（開隆堂 Sunshine 1）。この単元の§1と§2では、イギリスから戻った由紀という女の子が、イギリスで購入した本“Dilo in Lighthouse Bay”を友人に紹介する場面が取り上げられている。教える文法項目は疑問詞 Who と代名詞 him, her ではあるが、この単元を俯瞰的に見た時、生徒につけたい力は文法項目よりも「紹介する」というコミュニケーション能力ではないかと考えた。また、生徒の学習に対する関心や意欲を考え、時、「やってみよう！」という思いが湧き出てくる活動を指導者として提供したいとも考えた。

そこで、この単元の最終的な学習目標を「自分のお気に入りの本を簡単な英語で紹介してみよう（＝書く活動）」と設定した。そして、「紹介する方法を本文を読んで学ぼう」という目的を示し、教科書本文を紹介文のモデルとして読ませることにした。

##### ③単元の目標と指導計画

上記のコンセプトを元に、本単元の目標と指導計画を次のように設定した。

目 標：自分のお気に入りの本などを簡単な英語で紹介できる。

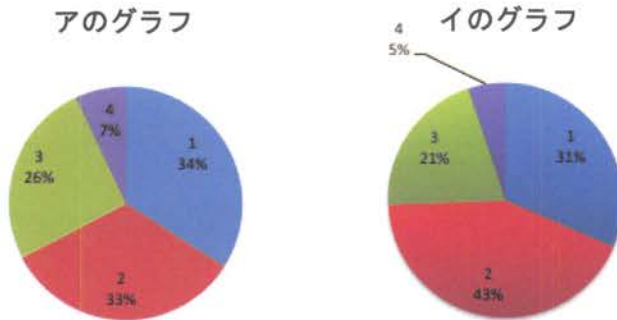
目標達成のために、モデルとなる教科書を意欲的に読むことができる。



## ⑤ 本実践の成果と課題

この単元の学習を終えた直後に、以下の項目についてアンケートをとった。(生徒数157名)

- ア 従来の読み方よりも、今回の読み方の方が何度も英文を読んだ。
- イ 従来の読み方よりも、今回の読み方の方が、内容理解が深まった。



1よく当てはまる    2だいたい当てはまる    3あまり当てはまらない    4まったく当てはまらない

この結果を見ると、約70%近くの生徒が従来の読み方よりも今回の読み方の方を肯定的に受け止めている。また、この時間の振り返りを見ると以下のようなコメントが目にとまった。

- ・本の内容がどんな内容なのかを考えてみた。英語も奥が深い…。
- ・じっくり読んで何を伝えようとしているのか考えることができた。
- ・文を逆にしてはなぜいけないのか、などいつもよりなぜ?と疑問を持って本文を読むことができたと思う。
- ・紹介する時の流れで1つ1つ考えられて書かれていることを知った。良い流れを読みながら考えていきたい。
- ・文の内容によって並べ方を変えた方が良いことを知った。次からよく読んで、「～だからそうなんだ」と考えたい。

一方で、25%近くの生徒が否定的回答をしていることは見逃せない。これは、先に挙げた工夫のポイントにおいて、英文の順序を考えさせる前に文の働きという抽象的概念を先に考えさせたことで、生徒を混乱させたことが原因の1つであると考えている。中学1年生という発達段階を考えると、指導の順序を具体から抽象へとするべきであったと反省しているところである。

## ⑥ 課題解決と思考の型・思考の手立て

本単元では「自分のお気に入りの本を簡単な英語で紹介してみよう」という課題を設定した。この課題を解決するために、紹介文の書き方を教科書本文を「読むこと」で学ばせたが、思考の型としては、「関連づける(=英文とその働きの関連づけ)」「(構成を考えながら)並べ替える」「(自分の並べ替えた英文と教科書本文を)比較する」を取り入れた。ごく簡単な読みものを取り扱っているので、思考の初歩的な型を体感させることをねらってみた。

実際に本を紹介する段階では、まず、思考の手立てとして、イメージマップの手法で、紹介する本の情報を「整理する」「取捨選択する」作業に取り組みさせた。その後、教科書で学んだ紹介文の型を示し、それに従って生徒に英文を書かせた。

	
<p>「坊ちゃん」を紹介するためのイメージマップ</p>	<p>「坊ちゃん」を紹介した生徒作品</p>
	
<p>「二十四の瞳」を紹介するためのイメージマップ</p>	<p>「坊ちゃん」を紹介した生徒作品</p>

1年生にイメージマップを授業に導入していく際は、3段階のステップを踏ませることで、生徒に徐々に慣れさせた。まず、Program 3『ウッド先生がやってきた』で一般動詞を学習する際、自由に発想させる練習としてブレインストーミングの手法を用い、次ページの対話文の（ ）に入る語をグループで自由に考えさせた。グループ間で柔軟な発想を競わすことで楽しみながら学習に取り組む様子が見られた。

次に、My Project 1『自己紹介をしよう』で、自分に関するデータを初めてマッピング形式で書かせた。マッピングは2度行わせ、1回目は自由な発想で、できるだけ書かせた。下の資料では黒で書かれた部分である。2回目は、教科書にあるモデルを読ませた後、最初書いたマッピングに不足していると思ったデータを追加させた。次ページの資料では、赤で書かれた部分である。2回目は、自分の持っている情報と教科書本文を比較しながら「読むこと」を意識した活動としても工夫したところである。

食べ物と店を決めよう

A: I like ( ☆ ).  
 B: I don't like ( ☆ ).  
 C: How about ( ◇ )?  
 B: Oh, I love ( ◇ ).  
 A: I love ( ◇ ), too.  
 D: Let's go to ( 店の名前 ).  
 C: Good idea.



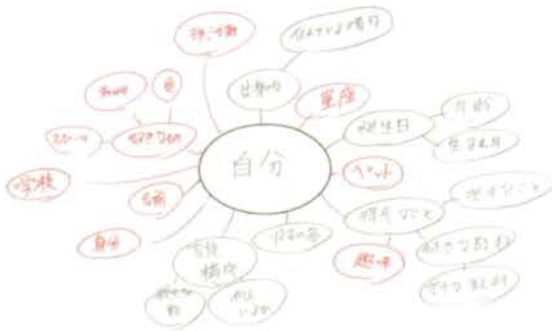
( ) を含む対話文

料理名を書いてください。下の空白に書いてみよう  
 (英語で書けなくてもかまいません)

私の料理を食べることができる店の名前を、下の空白に書いてみよう

カレー	ハンバーグ	ピザ	ラーメン	餃子
うどん	そば	ステーキ	焼肉	寿司
天ぷら	お好み焼き	パン	アイス	ケーキ
ヨーグルト	チョコレート	お茶	ジュース	お酒
豆沙餡	和菓子	漬物	納豆	味噌汁
麻婆豆腐	冷やし中華	卵焼き	茶碗蒸し	おでん
そば	うどん	餃子	ラーメン	焼肉
ハンバーグ	ステーキ	パン	アイス	ジュース
ヨーグルト	チョコレート	お茶	ジュース	お酒
豆沙餡	和菓子	漬物	納豆	味噌汁
麻婆豆腐	冷やし中華	卵焼き	茶碗蒸し	おでん
そば	うどん	餃子	ラーメン	焼肉
ハンバーグ	ステーキ	パン	アイス	ジュース
ヨーグルト	チョコレート	お茶	ジュース	お酒

左の ( ) に入る生徒が発想した語



自己紹介のためのイメージマップ

導入: Hello, everyone.

I'm Maezono Kazuki.

I'm thirteen years old.

I'm a Kadoi Fuzoku Junior High School student.

I'm from Tokyo.

I live in Matsuyama.

I'm good at playing handball.

I like handball.

I'm on the handball team.

I have a brother.

I have no pet.

I like sushi.

My favorite song is "Yume".

結び: Thank you

左のイメージマップを元に生徒が書いた自己紹介文

(2) 2年生の実践

①研究主題と設定の理由

2年生では表現活動と関連させた読みの指導を具体的な実践の柱として取り組んだ。

本校英語科では、思考力を育成するための言語活動として昨年度は活用型学習活動の工夫に取り組んできた。習得したことを活用し、書く、話すなどの表現する場面において個々の思考の姿が見られると考えたためである。その一方で、従来の読むことの指導、特に教科書本文の扱いにおいては課題があるように思われた。具体的には、文法や語句の説明を行う、本文で扱われている新出文法を用いた活動を行う、本文を読ませた後に表面に現れている事実についての質問に答えさせるといった、教師主導の指導が多いため、意欲的に読もうとする態度が育たないということが挙げられる。

今年度は、書く、話すなどの表現活動と読むことの指導を組み合わせることで、生徒により意欲的な態度で読みの活動に取り組ませようと試みることにした。

②具体的な方法

表現活動と読むことを関連させるため、二つの方法を試みた。一つ目は単元のゴールに表現活動を提示する、二つ目は本文の内容理解を深めるために本文に関連した表現活動を行っていくということである。次のような表現活動が挙げられる。

ア 単元のゴールに表現活動を提示する

自分の職業体験を英語でプレゼンテーションするという単元のゴールを提示し、教科書の登場人物たちが職業体験について対話したりプレゼンテーションしたりする本文を読ませる。また、感銘を受けた人物について

の伝記を書くという単元のゴールを提示し、ある実在の人物の半生記を扱った本文を読ませる。

イ 本文の内容理解を深めるための表現活動

- ・登場人物になったつもりで日記を書く。
- ・登場人物になったつもりで対話文を作る。
- ・登場人物へ手紙を書く。
- ・物語が始まる前の物語を書く。

### ③実際の単元計画と指導

実践その1

単元名 Program4 “The Pillow” Sunshine English Course 2 (開隆堂)

目標：本文の内容を理解し、質問に答えることができる。

登場人物の心情や背景を推論し、自分の意見を持ちながら読むことができる。


指導計画 (総時数 5 時間)

第1次 “The Pillow” の内容理解 (3 時間)

- 第1時 ロボットの発明品について考え、自分だったらどんなものを作りたいか考える。  
本文を読み、それぞれの質問に答え、内容を理解する。
- 第2時 本文の語句や意味について自分で考えたり、教師からの説明を聞いたりする。  
前物語 (本文が始まる前の物語) を作る。
- 第3時 前物語をお互いに聞かせ合う。  
もう一度本文を読んで感想を書く。

第2次 自分で考えたロボットや発明品を紹介する。(2 時間)

- 第1時 自分が作りたいロボットや発明品を考え、ペアでスキットを作る。
- 第2時 スキットを発表し合い、どんなロボットや発明品があればいいか考える。  
ロボットに関する別のテキストを読み、質問に答え、感想を書く。

第1時で行ったマッピング	第2時で行った内容理解
 <p>when you put some big thing into bag, you can take it easy.</p> <p>Very light</p> <p>soft</p> <p>It looks like Very compact</p> <p>自分が作りたい発明品について</p>	<p>After Reading ↑ 博士になったつもりで、さくらの説明をしてみよう。</p> <p>1</p> <p>I did it, at last! This is a great invention. It is a pillow, but it's not just a pillow. On this pillow, you can <u>  speak  </u> English in your dream. It will take about <u>  a  </u> <u>  month  </u>. <u>  Two  </u> <u>  months  </u> later, you can get to speak English very well. But it has one problem. You talk in your sleep in English. But you can only use it in your <u>  sleep  </u>. * get to ~ ~するようになる</p> <p>2</p> <p>あなたが見たいさくらの説明をしてみよう。</p> <p>I did it, at last! This is a great invention. It is a pillow, but it's not just a pillow. On this pillow, you can <u>  study math well  </u>. It will take about <u>  five  </u> <u>  hours  </u>. <u>  Five  </u> <u>  hours  </u> later, you can <u>  answer hard  </u> <u>  math questions  </u>. But it has one problem. You <u>  can  </u> <u>  answer the only one question  </u>. But <u>  you can study math well  </u>. * get to ~ ~するようになる</p>



第2時で行った前物語作り

One day, Dr. F came to Japan for the first time. So he didn't have any furnitures. He went to a shopping center to buy some furnitures. He went into there, but there were no signboards that written in English. So he couldn't understand everything. Then a man who worked for the shop came to him and talked to Dr. F in English. He was very glad. Dr. F grasped one pillow before he knew it. He was crying, so the pillow was wet. Dr. F hugged it and went home. He thought everyone who lives in Japan needs English when he had a pillow. So he started inventing a "I did it, at last!" said Dr. F in his small room. "This is a great invention." studying a pillow.  
His neighbor heard his voice and came over.  
"What did you make? It looks like a pillow to me." .....


Dr. F was studying English fifty years ago. He studied English very hard then. He wanted to study English easily. So he tried to make one thing. But he couldn't make it.

第4時で行ったスキット作り

Our Robot

Class \_\_\_\_\_ No. \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

N: I did it, at last! This is a great invention.

T: What did you make? It looks like a watch to me. 

N: Yes, it is a watch. But it's not just a watch.

T: What can we do?

N: You can control the time.

T: Time?

N: Yes when you put on this watch, you can control the time.

T: Does it work?

N: I hope so. If you want to stop the time, you turn a screw, you can stop the time.

T: That's good!

N: If you use it, you will not be late for school. And when you take a test, only you have a lot of time.

T: That's useful! I want to use it.

N: Thank you. But you must pay 200000 yen.

T: It's too expensive for me.

N: I'm sorry. Just kidding.

この單元では、前に示したイの「本文の内容理解を深めるための表現活動」に取り組んだ。

第1時に、最近見られるロボットや発明品について教師が画像を用いてプレゼンテーションを行い、その後、自分だったらどのようなロボットや発明品を作りたいかマッピングし、それをもとにペアで説明するという表現活動を行った。生徒は自分の発明品を英語で説明することに苦心している様子が見られた。その後本文を通し読みし、書かれている内容を理解した上で、ワークシートを用いて、書き換えされた文の空所補充を行ったり、その形式を利用して自分がほしいマクラを説明する文を書かせたりした。

第2時では本文の表現から状況や登場人物の気持ちの変化など全体で確認を行い、本文が始まる前の物語（前物語）を書くことに取り組ませた。第3時でお互いの前物語を読み合った後、日本語で感想を書かせた。第2次では単元の最初に行ったマッピングを再度取り上げ、自分が作りたいロボットや発明品を紹介する文を書かせた。さらにそれをもとにペアでスキットを作らせた。本文が二人の登場人物の会話中心であることから、それをモデルにくり返し読むことが期待できると考えた。最後に、ロボットに関する別のテキストを読ませた。

実践その1の成果と課題

この単元の題材は生徒にとって初めてとなる長文であるが、自分の考えを本文と関連させた表現活動をしていくことで、関心を持って読むようになっていた。また、表現するために教科書本文から形式を選択し、自分の言葉として用いている様子が見られた。第2時で行った前物語作りは教科書本文の表現から本文の背景や登場人物の過去、心情を読み取る必要がある。そのため生徒は本文を何度も読み、推論し、自分の考えを表現する中で思考する姿が見られた。その次の時間に行ったお互いの前物語を読み合う活動では、それぞれの読み方の違いに気づくとともに、自分の読み方を客観的に捉え直すことができた。

表現活動を関連させることで読むことへの意欲が高まったことが、初出の読み物にも見られるかを測るため

に、単元の最後に同じロボットの題材で初出の読み物を読ませた。その後、意識調査を行った。「書かれていることに興味を持って読んだ」では77%が、「意欲的に読んだ」では84%が「よく当てはまる」「大体当てはまる」としており、表現活動が読むことの意欲につながっていることをうかがわせる。一方、「本文の内容を思い出して読んだ」という生徒は全体の20%にも満たず、「ペアで作ったスキットを思い出して読んだ」という生徒も全体の23%という低い数値を示した。この原因として、表現の活動を取り入れて本文を読んだ時期と初出の読み物を読んだ時期が夏休みを挟んで1ヶ月以上経ってしまっていたこと、また題材は同じようなロボット、発明品であったが、本文の読み物はオチのある物語であるのに対し、初出のものは実際のロボットについての説明文であり、共通の主題となるものがなかったことが考えられる。このことから、初出の読み物を使用する際には主題や学ばせる目的を明確にし、読む時期も間を開けないようにすることが必要かと思われる。

## 実践その2

単元名 Program9 “A Priest in a Mask” Sunshine English Course 2 (開隆堂)

目標：本文の背景や登場人物の気持ちを推測しながら読むことができる。

指導計画 (総時数 8 時間)

### 第1次 “A Priest in a Mask” の内容理解 (6 時間)

第1時 単元の最終目標が「今までに感銘を受けた人の伝記を書く」であることを知る。

本文全体を通して読み、概要をつかむ。

Section1 の概要をつかむ。

第2時 Section1 の内容理解をする。

セルジオになったつもりで日記を書く。

第3時 Section2 の概要をつかむ。

最上級の練習

第4時 Section2 の内容理解をする。

孤児院を建てたとき、セルジオはどう思ったかを書く。

第5時 Section3 の概要をつかむ。

同程度の比較文の練習

第6時 Section3 の内容理解をする。

マリオになったつもりで、セルジオとの対話文を完成させる。

### 第2次 感銘を受けた人物の伝記を書く (2 時間)

第1時 他の人物の伝記文を読み、質問に答える。主人公への感想を英語で書く。

書きたいことや文の構成をまとめ、文を書く。(宿題)

第2時 お互いの伝記を発表し合う。

この単元では、前述のアの「単元のゴールに表現活動を提示する」とイの「本文の内容理解を深めるための表現活動」を組み合わせて取り組んだ。まず第1時に教師がある著名人の紹介をしながら、単元の最終目標が「伝記を書くこと」であることを示した。その後、本文を通して読み概要をつかませた。

PROGRAM: A Priest in a Mask

Class	No.	Name
27	1	Sergio Benitez was a bad boy. When he became 20, he went to see the local priest for help. The priest turned him out of the church without listening to him at all.
2	2	Sergio decided to become a priest and help poor children. He studied very hard. Ten years later, he became a priest. One after another, children came to him. At first, there were about 25 children. Teaching children was hard for him. But earning enough money for them was harder than that.
27	3	One day, Sergio watched a professional wrestling match on TV. All the wrestlers were masks. "That's it!" he thought. "I can earn lots of money without showing my face." But his plan did not work because he could not win any matches.
2	4	People came to know that Fray Tormenta was a priest. The priest wrestler became the biggest star among all of the wrestlers. Sergio had fights for children and got a lot of money. At last he could build a home for children with that money in 1988.
27	5	Sergio needed money to run the house. So, he had to keep wrestling. But he was getting too old. When he became 56 years old, he took off his mask and stopped wrestling.
2	6	One of Sergio's children wanted to help Sergio. His name was Mario. Mario was a lawyer. He grew up at Sergio's home. Mario took the name, "Fray Tormenta Junior." Mario had many fights. He was as brave as Sergio. Together, Mario and Sergio helped many children.

When he became 20,  
 Why did he decide to be a wrestler?  
 After he retired.

How did he become a star?  
 When he was young.  
 When he became adult.

\* 答え 複数する

概要を掘むために使用したワークシート

概要をつかむためのワークシート

上は実際に使用したワークシートである。それぞれの段落にどのようなことが書かれているかを選択することで、内容を整理しながら読むことができ、自分が伝記を書くときの参考にすることができる。

第2時では主人公が大きな決断をするという場面の内容理解を行った。本文を読んだ後、主人公の気持ちについて教師と生徒の間でやりとりをした後、選択式のワークシート（右図）を配って自分の考えに近いものを選ばせた。

適切な答えは二つ以上ある項目があり、いくつ選んでも良いこととした。その後、自分が登場人物の気持ちになって決意をした日の日記を書かせた。次のページは生徒が書いた日記である。

1 Read and answer the questions. それぞれ、二つ以上に○を付けても良い。

Q1 Why did Sergio need help?

A Because he didn't have any places to go.  
 I Because he wanted to change himself. \* himself 彼自身を  
 U Because he wanted the local priest to listen to him.

Q2 Why did he study for ten years?

A Because he liked to study.  
 I Because he really wanted to be a priest.  
 U Because to study was very hard for him.

Q3 When did he decide to become a priest?

A Before he went to see the local priest.  
 I When the priest turned him out of the church.  
 U Some years after he went to the church. \* some years after 何年か後に

内容理解のためのワークシート

“I went to see the local priest for help.”とあるが、これは本文から取り込まれた表現である。また、内容理解のためのワークシートの選択肢から用いた表現も見られた。“I’m going to study very hard to be a great priest.”とあるが、これは主人公の気持ちを推測して書かれた表現である。本文やワークシートからの取り込みだけでなく、多くの生徒が自分の言葉で主人公の気持ちを表現しようとする様子が見られた。第4時、第6時においてもそれぞれ場面に応じて登場人物になりきって言葉を考えさせた。

下のアとイの二つは、主人公が身寄りのない子どもたちのために孤児院を建てることができたときの気持ちを表現したものである。他の単元で学んだ表現を自分の言葉として取り込んでいる箇所が見られるが、それだけでなく自分の考えが見られる文となっている。左

Tuesday, December 3rd  
 I went to see the local priest for help. Because I wanted to change myself. But, the priest turned me out of the church without listening to me at all. I was very sad at that time. I wanted to cry. But, I won't give up. I decided to become a priest and help poor children. And I'm going to study very hard to be a great priest.

主人公になったつもりで書いた日記

ア

Then I thought <sup>was</sup> it <sup>was</sup> just a start line. I have a lot <sup>of</sup> thing to help the children.

イ

I'm glad I can make my dream come true. Children make me happy. I can't live a day without children!! So, I must work harder than before.

ウ

Sergio : Mario, I have a question. Why did you become a wrestler?  
 Mario : Because I wanted to help you.  
 Sergio : But you got a good job. You were a lawyer.  
 Mario : Yes. But I respect you. I grew up <sup>at</sup> your home.  
 Sergio : Oh, Mario. I'm so proud of you.  
 Mario : Thank you. But always I'm proud of you too.

のウは、主人公とその後継者の対話を作るという活動であるが、生徒はその後継者の立場に立つことで主人公に対する自分自身の気持ちを表現していることが見られる。

第2次では初出の読み物として他の人物の伝記を読ませた。今回は、本文と同じ実在の人物であり、物語の形式や主題も類似したものを選んだ。ここでは、語句や内容を正確に読み取れているかを問う問題に答えさせた後、主人公に対して自分の考えを書かせた。

“You are a very wonderful man! I can see many things, but I want to see with my heart.”など、ほぼ全員が何らかの文を書いている。文に誤りはあるが、初出の読み物であっても自分

の意見を持って読もうとしていることがうかがえた。この後、自分が感銘を受けた人物についてマッピングを行い、書く内容項目を分類したり選択したり、並べ替えるなどして整理を行った。その後で文を書かせた。教科書本文の長さに倣って、200～300語の文を書くことを課した。次ページは生徒が書いた伝記の下書きである。過去から現在へと事柄を箇条書きにしている段落のスタイルや、周囲の人物との会話や仕事ぶりについてなど、内容も本文から取り込んでいる。

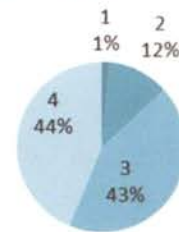
## "A Rich Nurse" Florence Nightingale

Class No. Name

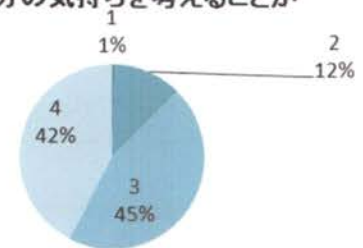
Florence Nightingale was born in Italy in 1820.  
 She was very gentle. She was very rich but when she was 22, she thought she wanted to help poor people and sick people. And she decided to become a nurse.  
 She said to her family, "I want to become a nurse." But her mother objected to her. So, she studied about medicine in a secret to her family. Years later her father agreed with her and she could become a nurse.  
 When she was 34, she went for Crimean War. She worked as a nurse in the war. She saved many people. She was called an angel of Crimea.  
 Years later, she stopped working as a nurse and made a nurse training school, and she became a teacher of the school. When she was 41, she worked too much and fell down. And she couldn't walk. But she continued walking. In 1910, she died at 90 years old.  
 I think Nightingale was a great woman. She didn't have to work, but she thought she wanted to work for people. I think it was very great. I want to become a person as gentle as her. And I want to help people like her in the future.

4 よく当てはまる 3 だいたい当てはまる  
 2 あまり当てはまらない 1 まったく当てはまらない

### 4. セルジオの日記を書くことでセルジオの気持ちを深く理解することができた



### 5. マリオの言葉を通してセルジオに対する自分の気持ちを考えることができた



上は Program9 の後の意識調査の結果である。87%が「主人公であるセルジオの気持ちを深く理解することができた」。同じく 87%が「登場人物

の言葉を通して自分の気持ちを考えることができた」という項目で肯定的に捉えていることがわかる。生徒の感想にも「登場人物の気持ちを英語を使って表すことができた」「マリオとセルジオの気持ちを考えることができ、お互いを尊敬し合っているのが素敵だと思いました」というように、登場人物の気持ちに迫った読み方ができていることがわかる。

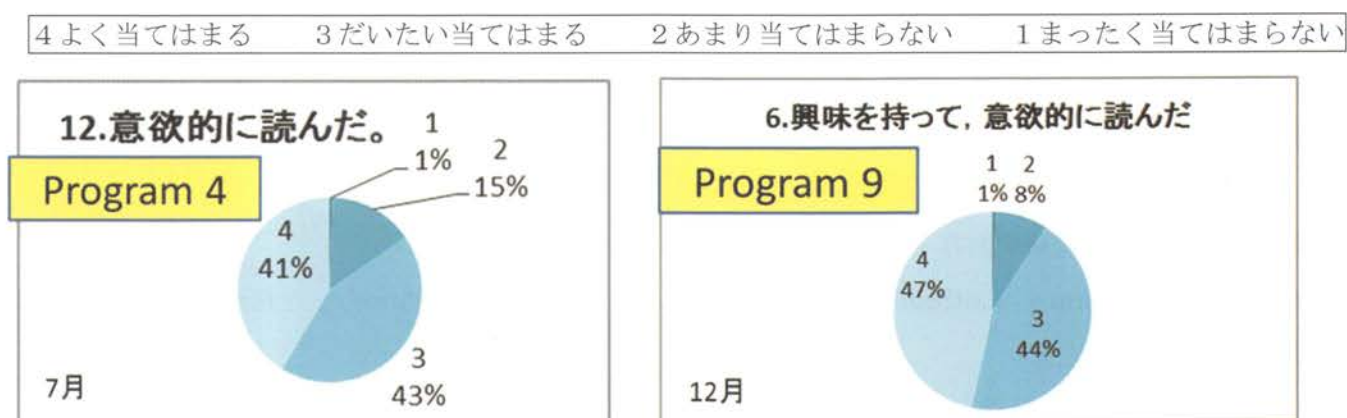
また、「勇気あふれる文章は読んでいて夢中になったし楽しかった」「私もセルジオのように自分のためではなく、何か誰かのために必死で頑張れる人になりたいと思いました」というように、興味を持ったり、自分の考えを持ったりしながら読んでいることがうかがえる。

## 実践その2の成果と課題

この単元においては最初に表現活動を単元の目標に設定したが、本文を読み進めていく上で内容に没頭していることがわかった。それぞれの過程で行われる表現活動を通して、文の表面に現れていることを理解するだけでなく、その背景や経緯、登場人物の心情などを推測し、深く読もうとしていた。また、自分の考えを持って読もうとする積極的な態度も見られた。そして第2次において表現活動をする際には、もう一度本文を読み直していることがうかがえる。ここでは本文を表現のモデルとして自分にとって有益な箇所を選択しながら読むという、主体的な読みを行っている。

#### ④本研究における思考の手立てと成果

表現活動を読みへの指導に関連させることで、大きく三つの成果が挙げられる。一つ目は読むことへの意欲、二つ目は主体的に読もうとする態度の育成、三つ目は表現力への波及である。まず一つ目の読むことへの意欲であるが、本文に関連した表現活動を行うことで、本文の内容を身近に感じ、自分の気持ちや考えなどを表現しやすい。また、ペアやグループなど他者と関わる活動が多いため、英語学習に自身のない生徒も安心して行える。さらに、本文の登場人物という姿を借りることで、普段はあまり主張できない自分の考えを述べやすいなど、劇の中の役を演じるような楽しさを味わえると考えられる。Program4 の後で行った意識調査では 84% だった数値が、表現活動の役割を明確にして行った Program9 の後では 91% と更に高い数値を示している。表現活動が読むことへの意欲を高めることに大きな効果があることを示している。



二つ目の主体的に読もうとする態度については、表現活動を目標に設定することで必要な情報を自分で取捨選択するなど自分で判断しながら読むことができるためである。また、ペアやグループで書いたものを読み合ったり、話し合ったりすることで自分の解釈を他の視点で見て本文を捉え直すという批判的な見方も主体的な読みにつながる。このような主体的な態度は将来、生徒自身が自立した読み手となることに資すると考える。

三つ目の表現力への波及についてであるが、これは読みと表現を関連させることで双方における思考力の育成が相乗的になされるということである。読む過程で行われる分類や必要な情報の取捨選択や順序立てといった働きが、表現活動を目標にすることで、より活性化する。また、表現そのものも読むことから学んでいる。始めは文そのものを自分に当てはめるということもあるが、別の場面では生徒自身の言葉として使えるようになっている。また、本文に関連させた表現活動は読み手である生徒の推論を大いに活性化させる。生徒一人一人によって推論の深さが異なるため、様々な表現をすることができる。

読みに対する態度を表現されたもので見取るということで、平成 25 年 11 月本校中間意見交換会においてもその評価のあり方について議論となった。生徒が通常のワークシートで表現したものは誤りもあるので、共通して見られる誤りや、未習の文法を使ったために見られる誤りについては、くり返し指導してきた。「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」の観点では、この段階で総括的な評価をすることができない。しかし、自分の考えを持って取り組もうとしていることに対しては、「意欲を持って読むことができた」という評価ができると考える。学習の内容そのものに対する意欲的な態度を育成することは技能の向上に大きな効果をもたらす。また、複数の技能の関連によって生徒の思考をより豊かに育てるものができると思う。

### (3) 3年生の実践

#### ①「読むこと」を深める指導について

新学習指導要領では「読むこと」で主として指導することの最後に「(オ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。」とあるのにも関わらず、「読むこと」の指導はいくつかの質問に答えさせることで、内容確認を行うにとどまることが多く、話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べる指導は十分になされてこなかった。

外国語科の学習指導要領改訂の趣旨からも読み取れるように、3年生はその発達段階を鑑みると特に「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの考えや体験と結びつけながら活用して「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能になるよう指導すべきだと考える。

そこで、3年生では自分の考えや経験と比較して主体的に読み、その読みを深める指導を目指した。その読みが主体的なものになるように、「読むこと」の後にする表現活動を読んだ内容や自分の考えを反映して表現する活動になるように工夫した。

#### ②実践の概要（具体的な研究内容・方法・研究を進める上での工夫点等）

本研究では、Program 4: Faithful Elephants を題材として、本文を読みながらまた読んだ後に次の4つの書く活動を行った。

- ア. 登場人物の気持ち
- イ. エンディング
- ウ. ゾウまたは飼育員になっての手紙
- エ. 戦争とは何か

#### ③単元の目標と指導計画（総時数9時間）

目標：本文を読み取って戦争中に起こったことを理解することができる。

評価の観点及び規準：物語の背景や登場人物の心情を読み取り、戦争に対して自分の考えを持ちながら読むことができる。

第1次 本文の内容を理解しよう。 (4時間)

- 第1時 Faithful Elephants の本文を読み、質問に答えよう。
- 第2時 ゾウや飼育員の気持ちを考えよう。
- 第3時 物語のエンディングを書こう。

第2次 天国に行ったゾウや飼育員の気持ちになって手紙を書こう。 (2時間)

- 第1時 天国に行ったゾウまたはまだ生きている飼育員として手紙を書こう。
- 第2時 手紙を読んで、返事を書こう。

第3次 戦争とはどんなものなのかを文章で書こう。 (3時間)

- 第1時 上野動物園の歴史と今を知ろう。
- 第2時 マッピングを見て、戦争とはどんなものか英文で書こう。
- 第3時 マッピングを見て、戦争とはどんなものか英文で書こう。

④ 「読むこと」と関連させた表現活動について

読むことと関連させた表現活動

- ア. ゾウや飼育員の気持ちを考えよう。(読むことで登場人物の気持ちを「想像」して吹き出しに書く。)
- イ. 物語のエンディングを書こう。(それまでのあらすじと自分の経験からエンディングを「想像」して書く。)
- ウ. 天国に行ったゾウまたはまだ生きている飼育員として手紙を書こう。(それまでの物語の内容と文脈を読み取って、登場人物の気持ちを「想像」したり、自分ならこう考えるという思いを手紙に表現する。)
- エ. 戦争とはどんなものを英文で書こう。(この物語を読んで自分が感じたことやそれまでに持っている知識を照らし合わせて、改めて戦争に対する自分の考えを英文で表現する。)

これらの「読むこと」と関連させた表現活動として主に「書くこと」を行った。

生徒たちは読む活動しながら自分が持っている知識や今までにしてきた経験と照らし合わせ、書く活動で自分の考えや意見などを表現していた。この過程で「思考・判断・表現」しながら、学びが起っていたように思う。これらの活動では、「自分」ならどう思うか、「自分」はどう考えるかというなど、そこには必ず「自分」を介在させることで主体的な活動になり、より深く思考し、より表現したいという意欲につながったと考えられる。

ア. の吹き出しを使った活動は、登場人物に感情移入しやすく、生徒にとっては取りかかりやすい活動だったようだ。生徒たちは吹き出しの中に入る言葉を考えるために、ゾウがえさをもらえなかった場面が書かれているあたりを何度も読み返し、ゾウや飼育員の気持ちを深く理解しようとしていた。

イ. のエンディングを書く活動は、その後続く物語を自分で考えなければならないため、それまでの内容と自分が書くエンディングにつながりを持たせるように、書き出す前までの内容をしっかりと理解するために意欲的に読み取ろうとしていた。また、書くときには自分の

Faithful Elephants



2. When a keeper walked by their cage, they stood up and raised their trunks high in the air. の続きを想像して英語で書きなさい。

The Keeper was very sad.  
 Keeper asked army to help Tonkey and Worly.  
 "Please!! Help them! Please! Please! They want to live!!"  
 When other keepers heard about that, they asked army to that, too. Then, the Army thought.  
 At last, the Army said, "OK. They want to live. And I think the war will finish soon. So I forgive that."  
 And their heart were saved.  
 People in Tokyo was very happy.  
 Animals in Veno Zoo is loved for ever.  
 the End...





それまでの経験や生徒の人柄が出ており、お互いのエンディングを読み合うことを楽しむことができた。例えば、ハッピーエンドにしたい生徒は実際の物語のとは違いゾウが助かるエンディングにしていた。この活動は、その後に物語の続きを読んだため、自分が書いたエンディングや友人が書いたエンディングとどう違うのだろうと興味を持ちながら実際の物語のエンディングを読むことができたように思う。

ウ. の天国に行ったゾウまたはまだ生きている飼育員として手紙を書く活動は生徒が最も意欲的に行った活動である。これは、手紙を書くということが自分の気持ちを相手に伝えるために行う活動であるということが考えられる。伝える相手を意識したときに、表現することはコミュニケーションをするための活動になり、生徒はコミュニケーションを楽しくするために自分の考えや思いを主体的に表現しようとしていた。その表現しようという目的のために、本文を繰り返し読んだり自分の考えにじっくりと考えを巡らしたりしていた。

エ. の戦争について英文を書く活動は、書くための準備として自分の思考を整理するためにイメージマップを用いた。そのイメージマップは次の3段階を設け、生徒たちは徐々に自分の考えを書き加えていった。

1) 物語を読む前に戦争についてのイメージをイメージマップに書く。

2) 物語を読んだ後に、物語から得た戦争についてのイメージや自分の感想を書き加える。

3) 上野動物園の歴史の英文を読み、現在の動物園の映像を見た後に自分の感想をイメージマップに書き加える。

これらの段階を経て、イメージマップを見ながら戦争に対して自分の考えと向き合い自分の思いを書くことで表現することにつなげた。この

イメージマップは、「思考」する場であり、書く活動をするまでにどの順序で書くのかどの情報を書くのかを「判断」し、「表現」するまでの手立てとなった。

### ～ 手紙を書こう ～

・天国に行ったゾウ(トンキー、ワンリー、ジョンの誰か)になって飼育員に手紙を書こう。  
誰になって書くか( ジョン John )

- \*天国(heaven)でどんな風に過ごしているか。
- \*生きているとき、何をして、どうしてその行動をしたのか、どう思ったのか。
- \*飼育員へのメッセージ。  
などを書こう。



Dear (Mr. Zookeeper)

How are you? I am in the heaven now.

Heaven is <sup>much</sup> ~~very~~ nicer than I thought.

I eat good food and play a lot everyday.

So I'm very happy now!

When I was <sup>alive</sup> ~~living~~, I stood up and raised my

trunks high in the air because I was hoping to get food and water but you didn't give me anything to eat. I was very sad and angry then.

I don't like you now. So you mustn't come here.

You have to live forever.

by John

## 生徒の感想より

生徒の感想は大きく分けて、次の4つに分けられるように思う。

### 1) 読み方やリーディングストラテジーに関して

- これまでの読み方だと、1回目…想像して読む、2回目…話の流れを理解する、3回目…単語を1つ1つ理解するという感じだった。けれど、今回は4回目以降があった。それらは、登場人物&動物の心情を考えるということに費やした。これによって英語力というよりは国語力の方がついたのでないかと思う。

What is war?



I think war is cruel. Because there are a lot of people and animals died in war. If there were not the war, a lot of people and animals could live happily. People knew "war isn't meaningful", but people couldn't live without fighting. I can't believe that the human killed another humans. That isn't just hurting another people, that hurted themselves. So, we can't get good things by war.

War has a lot of sad stories like three elephants' story. Three elephants, Tunkay, Nanly and John, were killed because there was war then. When I heard the story, I was really sad. Poor elephants! I can't accept it. Human beings are too selfish!

I think we must know about the wars. And we must learn what should we do about them because the wars made people sad. Now, the part of the world people still fight. I hope all people will be able to live happily.

### 2) 表現するという目的のために読んだことに関して

- 文を書くときにゾウや飼育員の気持ちを考えるために文章を何回か読んでいくうちに理解できてきました。また、手紙や戦争についての英文を書くことで英作文の力がついたのでないかと思います。
- 想像しながら英語を読んでいくことができた。それにより、象や飼育員の気持ちが理解でき、手紙も書きやすかった。手紙ではプログラム内で表現や単語を上手く使って分かりやすく書くことができた。

### 3) 読みを深めることに関して

- 国語の教科書を読む感じで本文を読めた。本文と向き合うということが少しできた。いつもより深い読解になったと思う。
- 本文を読み込んでいくうちに幾通りもの捉え方があるということが分かり、何度も読むことの大切さを感じられた。
- 授業でいろんな活動をすることによって、情景が浮かんできたり、登場人物やゾウの特徴、考えていることがわかるようになった。それによって文章の内容がよく理解できた。
- 国語のように、戦争についてその文章から読みとられることを根拠にして、戦争について自分の思いを英文で書くことができて嬉しかったです。英文を読んで考えることが少しでもできたような感じがしました。
- 長文を読むときに、その場面を自分の中でイメージして読むと長文に対する問題なども書きやすくなるし、興味を持って読むことができるので、少しは楽しくなった。

#### 4) 思考力・判断力・表現力に関して

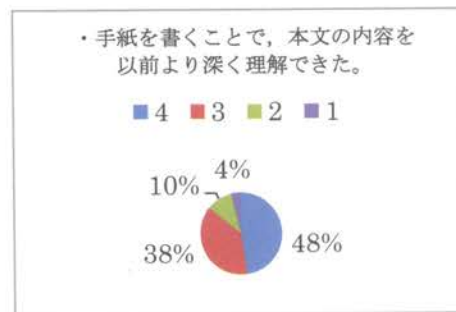
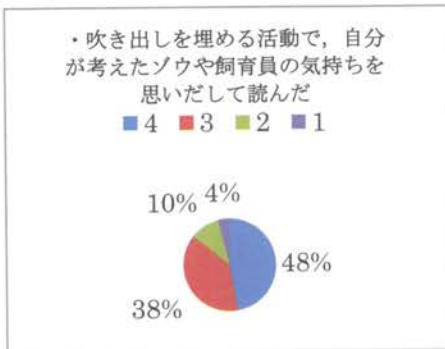
- ・マッピングしたり、登場人物の行動や様子を繰り返し読んでみると、文章は書きやすくなり、レベルもまえよりは上がった気がする。この時この動物はこういったかったんじゃないか、またこうしたかったんじゃないかと、想像する幅がとて広がった。なので、文章もその分書く量が増えた。
- ・私が最も印象に残ったのは手紙です。書かれている事に対して、ふりかえることができ、それだけでなく自分のオリジナルの内容をつけ加えたり、自分だったらこのようなストーリーにすると展開を変えたりしました。手紙を書くことが楽しかっただけでなく、戦争についてもう一度深く理解することができました。
- ・長文を読む→理解する→考えを持つ→文章にするというサイクルができるようになったと思う。

1)からは、この単元を通して生徒の中には読み方を意識しさらに読みを深めることができた生徒がいたことがわかる。2)からは表現するために読みに必要な感が生まれること、自分ならどうするかという思いや考えなどが加わり読みがより主体的になり、深い読みができた様子うかがえる。3)からは読みを深めるためには何度も繰り返し読む必要があること、またその読みが深まると生徒の意欲がさらに増すことがわかる。4)からは、表現するまでに読み思考することで、考えが深まりそれが意欲につながり、その意欲が英語の読解力、表現力の伸長につながっているのではと考えられる。

#### アンケート結果より

下のアンケート結果から、吹き出しの台詞を考えたり手紙を書いたりするような登場人物の気持ちになって書く表現活動は本文の内容を深く読みとるように努力する動機付けになることが読みとれる。

4よく当てはまる    3だいたい当てはまる    2あまり当てはまらない    1まったく当てはまらない



#### ⑤ 実践の成果と課題

表現活動させた作品の指導であるが、書いた作品は生徒同士で読み合うとそこでさらに読む練習になり、友人の書いたものに関しては本文以上に興味を持って読むことができるので、とても読む意欲を高めるのに効果的な活動ではないかと思う。それと同時に、表現の指導をどうするのだが、多くの英文を直すことは時間的にもとても難しい。そこで、生徒同士で読み合う活動の時に同時に、直し合う活動をも行っていきたい。しかしながら、英文の正確性を高めるために、その中でよくある間違いをクラス全体で確認するなどしてなるべく効率的で、正確性を高める活動にしていきたい。

表現活動を通してどう読み取れているかを評価するかに関しては、その表現したものに本文の内容が書かれていれば、それは読み取れており理解できていると考えられるだろう。しかしながら、その表現するものは英語で行っているため、理解してはいても英語で表現できないため理解できていることを示すことができないケースもあると考えられる。だからといって、読む活動をして理解しているかどうかを評価しないことはできないので、ここでは形成的に評価にとどめてはどうかと感じた。また、本研究では「主体的に読みを深める工夫」をテーマに研究したため、単元の目標やその評価を「外国語理解の能力」の観点としたが、3年生は特に「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの考えや体験と結びつけながら活用して「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することを意識した結果、無理に外国語理解の能力の観点で評価しようとするのではなく、外国語表現の能力の観点で評価してもよいのではないかと感じた。だからこそ、この「読み」に表現活動を関連させた場合、どの観点でどう評価していくかが今後研究していく必要があるだろう。

#### 4. 成果と今後の課題

「主体的に読みを深める工夫」として、「読むこと」に表現活動を関連させた結果、次の3つの点で成果を得ることができた。

- (1) 読むことへの意欲
- (2) 主体的に読もうとする態度
- (3) 表現力への波及

まず、読むことへの意欲に関してだが、アンケートや感想の結果、表現活動をするために繰り返し読むからこそわかるようになり、わかるからこそ楽しいと感じることができ、その後の読む活動への意欲へとつながっていることがわかる。

次に、主体的に読もうとする態度に関してだが、表現活動を目標に設定することで、必要な情報を入手しながら読むなど、自分で判断しながら主体的に読もうとしている様子が見られた。また、ペアやグループで書いた物を読み合ったり、聞き合ったりさせて何度も読ませることで、自分の解釈を他の視点から見て本文をとらえ直していた。

最後に、表現力への波及であるが、表現活動のために何度も本文を読むことで、本文から表現を学び、自分でその表現を真似したり、変化させたりして表現を広げていた。

これら3つの成果の意義として、読みの活動と表現活動を関連させることで双方における思考力の育成が相乗的になされること、意欲的に読もうとする態度が上級学校での読みの学習につながることで、将来、生徒自身が自立した読み手となることに資することの3つが挙げられるだろう。

一方、研究の過程でいくつかの課題も見えてきた。課題は次の5つである。

- (1) 表現活動を入れる時期や単元の見直し
- (2) 学年に応じた読ませ方の手順
- (3) ねらいに関連した初出の読み物
- (4) 学年間の有機的なつながりと積み上げ
- (5) 評価や評価の観点をどうするか

まず、計画的にどの時期にどの単元で表現活動するのか見直す必要があるだろう。

二つ目に、学年に応じた読ませ方の手順に関してだが、1年生で取り組んだ文の働きなど抽象的な言葉で理解させる活動は、やや時期尚早な感があった。まずは文を並べ換えるところから始め、それを2年生では簡単な言葉で、3年生では抽象的な言葉で文の働きを表現させるというような手順を踏むことが大切だろう。

三つ目のねらいに関連した初出の読み物に関しては、他社の教科書を使用することもあったが、主題が異なっていたり、語彙や文法レベルが合わなかったりすることがあった。適当なものが見当たらず、教師自身が文を作ったりもした。

四つ目の学年間の有機的なつながりと積み上げに関しては、それぞれの学年に一人の英語教員がいるため、自分の学年のことを中心に考えて指導を進めてきた。しかし、例えば3年生で手紙を書くならば、事前に1年生の段階で同じ様に本文の登場人物に手紙を書いてみたり、2年生で前物語を書くならば、3年生になったときに後物語を書くなど、つながりのある表現活動を取り入れていくことで、さらに効果的な指導になると考えられる。

最後の評価や評価の観点をどうするかに関してだが、「読むこと」に表現活動を関連させたことで、外国語理解の能力で評価すべきなのか、外国語表現の能力で評価すべきなのか、さらに研究を深めていく必要があるだろう。

今後はこれらの五つの課題を見直し、さらに読むことへの意欲を育てる指導につなげていきたい。

## 参考文献

国立教育政策研究所(2011) 『評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料』【中学校 外国語】

酒井 英樹 (2013) 「英語科における評価の観点と学力の3要素の関係 -「思考・判断・表現」の評価のために-」 『研究紀要 第42号 特集:「思考・判断・表現」の評価のあり方』 pp.29-33

日本教材研究文化財団

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 外国語編』

松浦 伸和 (2013) 「英語科における『思考・判断・表現』の評価」 『研究紀要 第42号 特集:「思考・判断・表現」の評価のあり方Ⅱ』 pp.24-28 日本教材研究文化財団

## 2年2組 英語科 学習指導案

平成25年7月10日(水)  
5時間目 2年2組教室  
指導者 山岸 律子

### 1. 単元名 Program4 “The Pillow” Sunshine English Course 2 (開隆堂)

#### 2. 目標

- ・本文の内容を理解し、質問に答えることができる。
- ・登場人物の心情や背景を推論し、自分の意見を持ちながら読むことができる。

#### 3. 評価の観点及び規準

本文の内容を正確に掴み、背景や登場人物に対する自分の意見や考えを持ちながら読むことができる。  
(外国語理解の能力)

#### 4. 指導にあたって

##### (1) 教材観

本教材は、星新一氏の「新発明のマクラ」が原作で、生徒にとっては教科書で触れる初めての長文である。通常の叙述文ではなく、原作に基づきほとんどが会話形式で成り立っているが、これまでの対話文と違い誰のセリフなのか混乱することが予想される。言語的には、斜字体になっている語やstudy とlearn の違いを扱っていたり、～later といった、物語文でよく見られる表現が使われていたりする。今までに習って知っている語句が、物語文では重要な意味を持ち、状況や登場人物の心情に大きな役割を果たしていることに気づかせる機会となる。また、そういった語句を正確に読み取ることから本文の背景や登場人物の心情を読み取ることに繋げることができる教材である。

##### (2) 生徒観

日頃から課題を意識して活動に臨む様子がうかがえる。また、「対話文の最後のセリフを考えてみよう」や「写真の人物になりきってセリフを考えてみよう」など、自由な発想で表現をすることにとっても意欲的で、間違いを恐れず取り組んでいる。昨年度の途中から自己表現の文を作る際にアイデアを分類したり順列を付けるなどして、思考を整理するためにマッピングを行ってきた。ただマッピングのやり方がうまくいかない生徒もおり、最初に全体でブレン・ストーミングを行ったり、やりとりを通して教師が例を示す必要がある。

理解力が高い生徒が多く、英文に書かれている内容についての質問には正確に答えられる。「なぜこんな質問をしたのだろう」「この二人の関係は」など、英文の背景に目を向けるような質問に対しても文脈から推論し、考えることを大切にしてきた。今回の単元の取り組みにおいては、自己表現の活動を読み活動に組み込んでいくことで登場人物を身近に感じたり、自分の意見を持ちながら物語を深く読むことが期待される。ひとつひとつの活動に生徒自身が考えて取り組むことができるように、生徒の思考の流れに沿った指導となるよう心がけたい。

##### (3) 指導観

リーディング教材としての本単元であるが、単に読んで内容を理解するだけでなく、自己表現の場を与えることで、主題な内容をより身近に感じ、登場人物の心情を考えたり、自分の意見を持ちながら読むなど、主体的に読もうとすることが考えられる。また、表現とリーディングの活動を交互に何回か行うことで、一回目では気づかなかった部分に目を向けたり、違った視点で読むことができる。表現する際にもマッピングしたり、個人で練習したり、ペアで練習したりと言語活動の方法を変えたり、聞く、読む、話す、書くの4技能を組み合わせることで思考を深めることが期待される。

#### 5. 指導計画 (総時数5時間)

##### 第1次 “The Pillow”の内容理解

(3時間)

第1時 ロボットや発明品について考え、自分だったらどんなものを作りたいか考える。  
本文のテキストを読み、それぞれの質問に答え、内容を理解する。

第2時 本文の語句や意味について自分で考えたり、教師からの説明を聞いたりする。  
音読練習する。  
物語が始める前の物語を作る。

第3時 物語が始まる前の物語をお互いに聞かせ合う。  
もう一度本文を読んで感想を書く。

##### 第2次 自分で考えたロボットや発明品を紹介する

(2時間)

第1時 自分が作りたいロボットや発明品を考え、ペアでスキットを作る。

【本時】

第2時 スキットを発表し合い、どんなロボットや発明品があればいいか考える。  
ロボットに関する別のテキストを読み、質問に答える。感想を書く。

6. 本時の学習（第2次中第1次）

(2) ねらい

- ・マッピングをもとに自分の作りたいロボットや発明品を紹介したり，相手の話を聞いて質問をしたりすることができる。
- ・“The Pillow”を参考にしながらペアで，自分たちのロボットや発明品を紹介するスキットを作ることができる。

(3) 評価の観点および規準

- ・対話を作る際に本文の形式を参考にし，自分の意見や感想を持ちながら読む。（外国語理解の能力）

(4) 本時の展開

学習活動・内容	教師の指導・支援および留意点	評価と方法	時間
1. Warm Up ・あいさつ，日付の確認 ・BINGO	・当番から全体に質問させる。 ・集中して取り組めるよう，テンポ良く単語を読んでいく。		5'
2. 導入 ・“The Pillow”の内容を思い出す。	・「Dr.Fについてどう思うか」「マクラがあったら使ってみたいと思うか」などインタラクティブにやりとりをする。		5'
3. 発展 ①ロボットや発明品を紹介 ・自分が作りたいロボットや発明品について，以前書いたマッピングに加筆する。 ・個人で言う練習をする。 ・ペアで聞かせ合う。  ・相手の話を聞きながら，あいづちを打ったり，質問をしたりする。	・英語を使って表現できるものに印をつけさせる。 ・“With this robot / invention, we can ~.” “It looks ~.” など，始めの言い方を統一させる。  ・全体でブレインストーミングを行い，生徒から出てきた言葉を板書していく。		10'
②スキット作り	ペアでロボットや発明品を紹介するスキットを作ろう。		20'
・二人で会話したことをもとにスキットを作る。  ・早くできたペアのスキットを全体で聞く。  ・自分たちのスキットの手直しをする。	・ワークシートを配り，会話は“The Pillow”の文で始めるようにする。 ・“The Pillow”の文を参考にするように言う。 ・スキットは，自分たちのロボットや発明品を宣伝できるような内容になるよう指示する。 ・和英辞典を準備する。  ・早くできたペアのスキットを聞き，アドバイスを与える。 ・生徒が自分たちで考えた表現など板書していく。	評価：本文の形式を参考にしながら対話文を作り，自分の意見や考えを持ちながら読んでいる。 （外国語理解の能力）〈ワークシート〉	5'
4. まとめ ・自分のふり返り “English Learning Journal”に書く。 ・次の時間の予告 ・あいさつ	・本時の取り組みに対して学んだことや課題を書くように言う。		5'

## 2年2組 英語科 学習指導案

平成25年12月3日(火)  
5時間目 2年2組教室  
指導者 山岸 律子

### 1. 単元名 Program9 “A Priest in a Mask” Sunshine English Course 2 (開隆堂)

#### 2. 目標

本文の背景や登場人物の気持ちを推測しながら読むことができる。

#### 3. 評価の観点及び規準

本文の大切な部分を正確に掴み、背景や登場人物の気持ちを推測して、自分の意見や感想を持ちながら読むことができる。  
(外国語理解の能力)

#### 4. 指導にあたって

##### (1) 教材観

本教材は、メキシコのセルジオ・ベニテスという神父が覆面レスラーになるという実話を基に書かれた物語文である。不良少年であったセルジオが立ち直ろうと教会を訪れるが、神父に追い返されてしまう。しかしその後、自分のような救いを求める子どもたちのために神父になろうと一生懸命に勉強し、念願の神父になる。そして子どもたちのために身を挺して覆面レスラーとなってお金を稼ぐ様子や、神父であることが世間に知れて逆に人気が出て遂に念願の孤児院を設立する様子、その孤児院出身の子どもがセルジオのリングネームを継承してレスラーになる様子など、劇的で生徒に感動を与えることができるだろう。物語文であるが登場人物のセリフや心情を表す文はほとんどなく、その行間から背景や登場人物の気持ちを推測させることのできる教材である。

##### (2) 生徒観

日頃からペアで話す活動や自分の考えを発表する活動などにおいて積極的である。理解力が高い生徒が多く、英文に書かれている内容についての質問に正確に答えることができる。その反面、理解に時間がかかる生徒もおり、ペアやグループによる学習を入れることで、お互いに協力して理解を助け合うことができる。

2年生になり、教科書の中でもまとまった長さの英文を扱うことが多くなった。導入の際には口頭導入や写真などを用いた口頭によるやり取りを通して概要をつかませるなど、読む意欲をわかせるための工夫を行ってきた。単元によっては、途中でスキットを作らせたり、終わった後に自分のことを書かせたりと、表現活動との関連を図ってきたが、自己表現をすることで、表現の仕方を学ぼうと何度も本文に目を通したり、違う視点で読んだり、意欲的に読む姿勢が伺える。

##### (3) 指導観

本単元においては、第1時において、単元の終りに「今まで感銘を受けた人の伝記を書く」という目的を設定し、そのためのモデルとしての位置づけで本文を読むことにする。段落ごとの読みにおいては、自己表現の活動を組み込んでいくことで登場人物の心情に迫り、思考しながら読むことが期待される。

比較級や最上級などの言語材料を扱う単元であるが、本文理解の指導の中でその意味を理解させ、自己表現と組み合わせることで練習させるにとどめ、単元全体を一つの物語として深く読ませることに重点を置き、内容理解や内容に関連した表現活動に時間をかけて指導していきたい。

#### 5. 指導計画 (総時数8時間)

##### 第1次 “A Priest in a Mask”の内容理解

(6時間)

第1時 単元の最終目標が「今までに感銘を受けた人の伝記を書く」であることを知る。  
本文全体を通して読み、概要をつかむ。  
Section1の概要をつかむ。

第2時 Section1の内容理解をする。  
セルジオになったつもりで日記を書く。

【本時】

第3時 Section2の概要をつかむ。  
最上級の練習

第4時 Section2の内容理解をする。  
孤児院を建てたとき、セルジオはどう思ったかを書く。

第5時 Section3の概要をつかむ。  
同程度の比較文の練習

第6時 Section3の内容理解をする。  
マリオになったつもりで、セルジオとの対話文を完成させる。

##### 第2次 感銘を受けた人物の伝記を書く

(2時間)

第1時 他の人物の伝記文を読み、質問に答える。主人公への感想を英語で書く。  
書きたいことや文の構成をまとめ、文を書く。(宿題)

第2時 お互いの伝記を発表し合う。



6. 本時の学習（第2次中第1次）

(2) ねらい

- ・困難に立ち向かって生きるセルジオの原点となった日の心情を推測し、その気持ちを表現することができる。
- ・本文に書かれている内容の背景や状況、セルジオの気持ちを理解しながら読むことができる。

(3) 評価の観点および規準

- ・本文の背景や登場人物の気持ちを推測しながら読むことができる。 (外国語理解の能力)

(4) 本時の取り組みのポイント（本校の研究との関連）

読みの目的を設定することで課題を明確にし、読みの活動に表現活動を関連させることで、本文からの情報を整理し、その背景を推測したり自分の考えをまとめたりして思考が深まることが考えられる。又、技能の面においても「読む」「書く」「話す」「聞く」を組み合わせることで、思考の視点が変わり、広がることが期待される。

(5) 本時の展開

学習活動・内容	教師の指導・支援および留意点	評価と方法	時間
1. Warm Up ・あいさつ、日付の確認 ・BINGO ・Three Word Test ・Small Conversation	・当番から全体に質問させる。 ・集中して取り組めるよう、テンポ良く単語を読んでいく。		10'
2. 導入 ・Section1の内容を思い出す。	・前時にした質問とその答えを確認し、板書する。 Q1 What kind of boy was Sergio? Q2 How many years did Sergio study to be a priest?		5'
3. 音読練習 ①単語や連結語句の言い方の練習 ②長めの語句のかたまりや文に区切った練習	・意味の混乱が予想される語句は、やりとりをしたり、視覚的に示す。		10'
4. 内容理解 ①Q1「なぜ彼は救いを求めたのか」 Q2「なぜ神父になるために10年間も勉強したのか」 Q3「いつ神父になることを決意したのか」について考える。 ②全体で発表する。	・導入で用いた質問を再度取り上げて、生徒とやりとりをしながら考えさせる。キーワードとなる語句を板書する。 ・ワークシートを配る。 Q1 Why did Sergio need help? Q2 Why did he study for ten years? Q3 When did he decide to become a priest? ・日本語で言ったものを英語に直してキーワードとなるものを板書する。		20'
この日セルジオは日記に何を書いたらう。			
④神父に追われた日の気持ちを考え、セルジオになったつもりで日記を書く。 ⑤ペアでお互いの日記を読み合う。 ⑥書き足したり、訂正したりする。 ⑦全体で発表する。	◎自分の気持ちや考えを入れて書きながら、本文の背景や登場人物の気持ちを推測しながら読むことができる。 (外国語理解の能力)〈ワークシート〉	・お互いに良いところや直した方が良いところをアドバイスするように指示する。	
4. まとめ ・自分の振り返り “English Learning Journal”に書く。 ・次の時間の予告 ・あいさつ	・本時の取り組みに対して学んだことや課題を書くように言う。		5'

# 3年4組 英語科 学習指導案

平成25年7月10日(水)  
6時間目 3-4教室  
指導者 斉藤 亜希子

1. 単元名 Program4 Faithful Elephants Sunshine English Course 3 (開隆堂)

## 2. 目標

本文を読み取って戦争中に起こったことを理解することができる。

## 3. 評価の観点及び規準

物語の背景や登場人物の心情を読み取り、戦争に対して自分の考えを持ちながら読むことができる。

(外国語理解の能力)

## 4. 指導にあたって

### (1) 教材観

戦時中の上野動物園での3頭のゾウと飼育係たちとの間で実際に起こった話をもとにした物語である。当時、動物園が空襲された場合に備えて、危険な動物の処分が命じられた。何も罪もない3頭のゾウを処分しなければならなかった飼育係の心の葛藤を読み取りながら、戦争の悲劇が日常のあらゆる場面で繰り広げられていたことを気付かせたい。そして、戦争のない平和な世の中の素晴らしさ、尊さを理解させたい。

本文は360語から成っており、新出単語も多い。分からない単語があっても読み進め、前後の文脈から内容を読み取ることに慣れさせ、英語で内容を理解する喜びを味わうことができる読み応えのあるリーディング教材である。

### (2) 生徒観

英文の内容に関する質問には、正確に答えられる生徒が多い。生徒たちは英文を主体的に読みとる活動をあまりしておらず、答えが決まっていない表現を発表することには抵抗感があるようである。しかしながら、学習に対する意欲は高く、想像力を働かせる活動をしたときに、どんな表現をするのか楽しみな生徒たちである。

また、昨年度から、表現活動をする時に、書く前の準備として自分の考えを発展させたり、整理したり、順序づけたりするために、マッピングをしてきた。多くの生徒たちは、マッピングに少しずつ慣れてきたようである。

### (3) 指導観

この教材はリーディング教材であるが、本文に書かれている内容を表面的にとらえるだけに留まらず、ゾウや飼育員の気持ちを考えたり、ゾウや飼育員として手紙を書く表現活動を行ったりすることで、本文を主体的に読ませたい。

また戦争を扱った教材であるため、単元を通して戦争を経験していない世代として戦争とはどんなものかを考えさせたい。そこで、教材を読む前、読み終わってから、ゾウや飼育員として手紙を書く表現活動をした後のそれぞれにマッピングをする。その際に、戦争とは何かをペンの色を変えて加筆することで、戦争に対する考えの深まりを視覚化していきたい。

本時は、それまでに読んだ物語の文脈を考えて、その続きを書く活動をする。活動を進める過程で、本文を読み返して文脈を深くとらえて欲しい。また、オリジナルのエンディングを書いた後に、教科書のエンディングを読むことで自分の書いた内容と対比して、その違いや豊かな英語表現に気付かせたい。

## 5. 指導計画 (総時数9時間)

第1次 本文の内容を理解しよう。

(4時間)

第1時 Faithful Elephantsの本文を読み、質問に答えよう。

第2時 ゾウや飼育員の気持ちを考えよう。

第3時 物語のエンディングを書こう。

【本時】

第2次 天国に行ったゾウや飼育員の気持ちになって手紙を書こう。

(2時間)

第1時 天国に行ったゾウになって手紙を書こう。

第2時 手紙を読んで、返事を書こう。

第3次 戦争とはどんなものなのかを文章で書こう。

(3時間)

第1時 上野動物園の歴史と今を知ろう。

第2時 マッピングを見て、戦争とはどんなものか英文で書こう。

第3時 マッピングを見て、戦争とはどんなものか英文で書こう。

6. 本時の学習 (第1次中第3時)

(1) 題材名 Faithful Elephants のエンディングを書こう。

(2) ねらい

・本文を読み取って、トンキーとワンリーが芸をした後のストーリーを想像し書くことができる。

(3) 評価の観点および規準

・トンキーとワンリーが芸をした後のストーリーを書きながら、それまでの文脈を理解し、今後の展開を推測しながら読むことができる。(外国語理解の能力)

(4) 本時の展開

学習活動・内容	教師の指導・支援および留意点 評価と方法	時間
1. あいさつ	・全員が教師の方を向いているか確認してからあいさつをする。	1分
2. Warm-up Bingo	・全員が取り組んでいるか確認する。	4分
3. Review ・教師の質問に答えながら本文の内容を確認する。	・生徒が答えられない場合はヒントを与えながら、答えが出てくるようにする。	10分
4. ストーリー作り ・ワークシートに ストーリーの続きを書く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     トンキーとワンリーが芸をした後のストーリーを書こう。                 </div> ・なかなか書き始められない場合は、 ① この後トンキーとワンリーはどうなったか。 ② 戦争はどうなったか。 ③ 今の上野動物園はどんな様子か。 を考えさせる。 ・希望の生徒には和英辞書を貸す。 ・早くできた生徒の文章を読み、アドバイスをあたえる。 ・時間の余っている生徒はペアの人にアドバイスをするように声をかける。 評価：トンキーとワンリーが芸をした後のストーリーを書きながら、それまでの文脈を理解し、今後の展開を推測しながら読むことができる。(外国語理解の能力) 〈ワークシート〉	10分
5. グループでお互いに書いた英文を読む。 ・1番良いと思った英文に投票をする。 ・グループの人の英文を読んで、自分の文をもう一度読んで直したいところを直す。	・どうして1番良いと思ったのか話し合わせる。 ・英文が正確でなければ、お互いにアドバイスをし合うように言う。 ・時間があれば、自分の英文を読んで書き直しをさせる。	5分
6. 英文の発表	・発表の内容について、生徒に質問する。	5分
7. 本文を理解するために必要な単語を理解する。	・新出単語を使った英文を使って、生徒に説明したり質問したりしながら、新出単語の意味を想像させる。	10分
8. 本文を読んで、質問に答える。	・できなかったところは宿題にし、次の授業で答え合わせをする。	3分
9. English Learning Journal を書く。	・「本日の学習の内容：エンディングを書こう。」でJournalを書かせる。	2分